

NPO法人  
築地居留地研究会

Let's find our roots in Tsukiji



主催：NPO法人築地居留地研究会 後援：中央区

2025年5月度定例研究報告会 あじさい祭り

テーマ：『誤った理解を正してわかるイザベラ・バードの日本の旅・旅行記の意義と魅力  
－居留地・東京やハインリッヒ・シーボルトとの関わりも意識して－』

講演内容：

この講演では、イザベラ・バードの明治11年の日本の旅とその記録の本当の姿、つまり真の魅力と意義が、半世紀に及ぶ旅の生涯を視野に収め、「旅と旅行記を科学する」ことによって初めてわかることを、本研究会が外国人居留地をめぐる研究と活動を展開してきておられ、今日の会がシーボルト稲さんの誕生月に因み「築地あじさい祭り」として行われる点にも留意して話します。バードの旅と旅行記にとっては、7カ月に及ぶ日本滞在中の4分の1を過ごした東京に関する記述が実は重要で、居留地もまた重要で興味深いのですが、時間の関係で省き、もしそのような機会がいつか与えられればと思う次第です。

日時：2025年5月24日（土）

14:00～16:00

場所：カトリック築地教会

2階 ホール 80名

(13:30～ 受付)

入 場 無 料



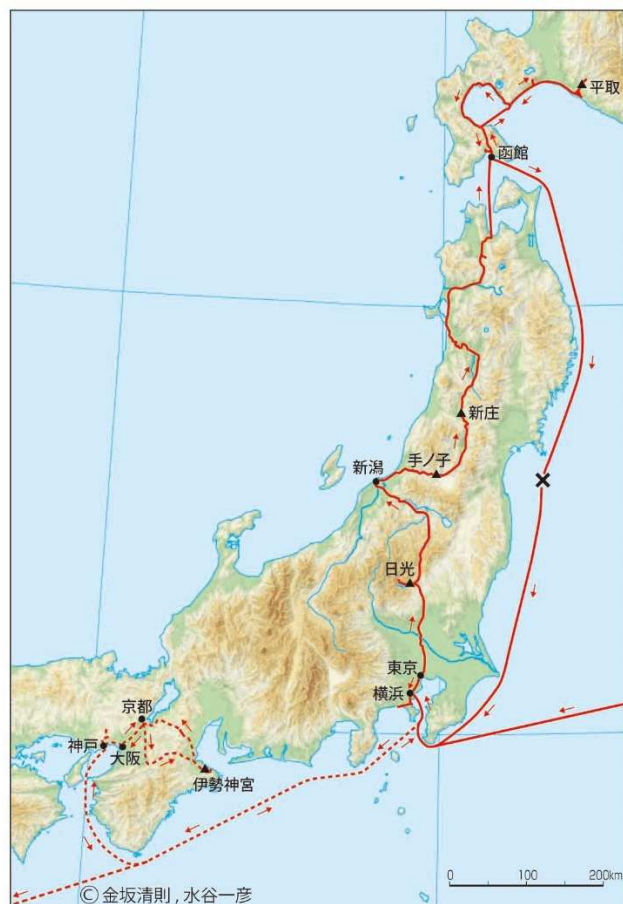
イザベラ・バード



ハリー・パークス



金坂清則氏



イザベラ・バードの日本の旅のコースと  
開港場・開市場など

講師紹介：金坂清則氏（京都大学名誉教授、王立地理学協会特別会員、王立スコットランド地理学協会特別会員）

昭和22（1947）年5月に疎開先の両親の故郷富山県に生まれ、大阪で育つ。

京都大学で地理学を専攻し、「人間活動とその所産の地域的存在様式究明の科学」との独自の定義の下で、人文地理学に関するさまざまなテーマを扱い、斯学の可能性を追求する。

そして、1989年、大阪大学教養部での「性と文化」に関するリレー講義で、地理学を軸とし、学問分野の枠組を超えた学際的研究としてのイザベラ・バード論を扱い、博士課程当時の夢の実現に着手。それ以後、この比重を次第に高め、今に至る。

研究の一環としてのバードの旅行記等の翻訳の一方、フィールド・ワークの副産物である写真を生かした写真展を2004年以降、バードの旅に縁のある日本を含む世界の17カ所で延べ2年半開催。

そして、記念写真集のほか多数の訳書や著書・論文を刊行し、一部は日本語版を充実させた英語版として出版。

こうしてバードとその旅・旅行記の真実を世界に向け、また学問成果の社会還元を意識して活動してきている。

# カトリック築地教会へのアクセス

中央区明石町5-26



## 地下鉄にてご来場の場合

- 新富町（地下鉄有楽町線）駅6番出口から徒歩5分
- 築地（地下鉄日比谷線）駅3番出口から徒歩6分
- 

主催：NPO法人築地居留地研究会

後援：中央区

お問合せ：03-3551-7595（平日9時～17時）